



2020年10月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年9月10日

上場会社名 株式会社 トップカルチャー

上場取引所 東

コード番号 7640 URL <http://www.topculture.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 清水 秀雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 遠海 武則

TEL 025-232-0008

四半期報告書提出予定日 2020年9月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年10月期第3四半期の連結業績(2019年11月1日～2020年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年10月期第3四半期	23,310	2.5	470	107.3	491	123.3	428	795.4
2019年10月期第3四半期	23,905	1.0	227		220		47	

(注) 包括利益 2020年10月期第3四半期 430百万円 (%) 2019年10月期第3四半期 38百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年10月期第3四半期	35.45	35.38
2019年10月期第3四半期	3.96	3.95

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年10月期第3四半期	23,016	3,704	15.9	303.57
2019年10月期	21,528	3,273	15.1	268.14

(参考) 自己資本 2020年10月期第3四半期 3,668百万円 2019年10月期 3,240百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年10月期		0.00		0.00	0.00
2020年10月期		0.00			
2020年10月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年10月期の連結業績予想(2019年11月1日～2020年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,700	8.0	222	27.6	175	13.4	151	11.1	12.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年10月期3Q	12,688,000 株	2019年10月期	12,688,000 株
期末自己株式数	2020年10月期3Q	603,480 株	2019年10月期	603,480 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年10月期3Q	12,084,520 株	2019年10月期3Q	12,084,518 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(追加情報)	9
(四半期連結損益計算書関係)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
4. 補足情報	12
(1) 生産、受注及び販売の状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、厳しい状況で推移しました。緊急事態宣言の解除後は、感染拡大の措置を講じつつ、段階的に経済活動を再開していく動きとなっておりますが、当面極めて厳しい状況が続くと見込まれており、わが国の経済のみならず、世界経済も併せて先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの事業環境につきましても、2019年10月に襲来した台風19号により、当社の運営する蔦屋書店東松山店が甚大な被害を受け休店しておりましたが、2019年12月27日より営業を再開いたしました。また、蔦屋書店塩尻店が道路拡張工事の影響により、T S U T A Y A 町屋店が周辺地域の開発計画の影響により、いずれも2020年1月に閉店いたしました。これによりグループ店舗数は76店舗となりました。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言を受け、2020年4月から5月にかけて東京都の2店舗を休業し、他74店舗につきましても営業時間の短縮等を行いました。

また、緊急事態宣言に伴う外出自粛要請を受け、商談や各種会議、店舗巡回もリモートで行い、店舗や事業所内での密閉・密集・密接の3つの密を避ける対策を実施し、お客様、従業員の安全確保に努めました。

このような状況のもと、当社グループでは、「日常的エンターテイメント」を提供することで一人一人の暮らしを豊かにしたいというコンセプトを掲げ、食品などの新規の商品分野の開拓、書籍や特撰雑貨・文具の複合展開、様々なテナントの積極的な誘致などを実施し、お客様へ多様なライフスタイルを提案する店舗を作っていました。また、アプリやSNSを活用し、お客様のニーズに沿った情報を積極的に発信してまいりました。

同時に、店舗の運営力・収益力の強化対策として、売上構成比率の見直しや、営業時間の短縮、セルフレジの導入による店舗運営コストの削減を推進しております。また、当社グループが主要経営指標としている交差比率(売上総利益率×商品回転率)改善の為、システム投資によるIT化を進め、自社基幹システムによる在庫管理の改善を行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高23,310百万円(前年同四半期2.5%減)となり、営業利益470百万円(前年同四半期107.3%増)、経常利益491百万円(前年同四半期123.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益428百万円(前年同四半期795.4%増)となりました。

売上・利益の増減要因

売上面につきましても、緊急事態宣言に伴う外出自粛要請による巣籠り需要の高まりや、マスクや除菌グッズ等の衛生用品の販売により、主力である書籍、特撰雑貨・文具の売上が非常に好調でした。一方で、自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大による一時的な休店、周辺地域の開発に伴う閉店等により、営業店舗数そのものが前期に比べて減少し、当社グループの軸である蔦屋書店事業全体の売上高前年同期比は97.3%(既存店102.7%)となりました。

利益面につきましても、前述した主力商品の売上の伸長が奏功し、営業利益は前年同期比107.3%増加し470百万円となりました。また、休業中の固定費や将来に向けた一過性の投資的費用123百万円が発生したものの、閉店店舗の販管費については減少し、経営効率の改善にもつながりました。経常利益は受取補償金もあり、前年同期比123.3%増加し491百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比795.4%増加し428百万円となりました。

セグメントの状況は、次のとおりです。

なお、第35期連結会計年度末より、従来「その他」に含まれていた「スポーツ関連事業」及び「訪問看護事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。また、これに合わせて前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成しております。

また、各セグメントの業績値につきましても、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

① 蔦屋書店事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高22,801百万円（前年同期比97.3%）、セグメント利益は415百万円（前年同期比217.1%）となりました。

主力商品の売上高前年同期比は、書籍102.5%（既存店107.6%）、特撰雑貨・文具106.3%（既存店109.6%）、レンタル79.9%（既存店86.4%）、ゲーム・リサイクル95.8%（既存店105.8%）、販売用CD56.9%（既存店60.9%）、販売用DVD85.0%（既存店91.3%）、賃貸不動産収入100.4%（既存店100.1%）となりました。

② スポーツ関連事業

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、例年であれば3月より繁忙期に入りますが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため休業していたことも影響し、売上高137百万円（前年同期比83.3%）、セグメント損失11百万円（前年同期セグメント損失14百万円）となりました。

③ 訪問看護事業

訪問看護事業につきましては、事業所が2か所となり、利用者も順調に増加した結果、当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高64百万円（前年同期比252.2%）、セグメント利益9百万円（前年同期セグメント損失16百万円）となりました。

④ その他

当セグメントの当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高312百万円（前年同期比103.0%）、セグメント利益5百万円（前年同期比157.7%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

総資産につきましては、前連結会計年度末比1,487百万円増加し、23,016百万円となりました。これは主に現金及び預金が3,053百万円増加し、商品が715百万円、未収入金が416百万円それぞれ減少した結果、流動資産が2,097百万円増加した一方で、リース資産が263百万円、建物が110百万円、保証金が106百万円、それぞれ減少したことにより、固定資産が610百万円減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末比1,057百万円増加し、19,312百万円となりました。これは主に買掛金が989百万円、短期借入金が500百万円、それぞれ増加した一方で、リース債務が349百万円減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末比430百万円増加し、3,704百万円となりました。これは主に、利益剰余金が428百万円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第4四半期以降においては、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響も想定され、今後の当社グループの業績に与える影響が不透明であり、2020年10月期の連結業績予想につきましては、2019年12月6日に公表いたしました数値から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,254,888	4,308,097
売掛金	339,050	358,742
商品	8,709,153	7,993,696
前払費用	304,635	315,605
未収入金	533,853	116,873
その他	24,018	170,303
貸倒引当金	△404	△404
流動資産合計	11,165,196	13,262,916
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,013,065	1,924,363
土地	1,423,759	1,423,759
リース資産(純額)	3,022,857	2,758,972
その他(純額)	256,009	200,545
有形固定資産合計	6,715,692	6,307,641
無形固定資産		
その他	52,576	49,673
無形固定資産合計	52,576	49,673
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,136,165	2,968,652
その他	458,804	427,208
投資その他の資産合計	3,594,970	3,395,861
固定資産合計	10,363,238	9,753,177
資産合計	21,528,434	23,016,093

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,877,938	3,867,778
短期借入金	3,500,000	4,000,000
1年内返済予定の長期借入金	1,887,059	1,567,982
リース債務	491,504	482,414
未払法人税等	87,642	62,765
賞与引当金	47,000	25,000
未払金	431,082	380,241
その他	334,163	349,661
流動負債合計	9,656,390	10,735,844
固定負債		
長期借入金	3,737,494	4,041,829
リース債務	3,907,863	3,567,799
資産除去債務	569,874	563,610
退職給付に係る負債	67,771	64,666
役員退職慰労引当金	62,941	62,941
長期未払金	47,513	74,810
長期預り敷金保証金	204,534	200,334
その他	579	204
固定負債合計	8,598,571	8,576,197
負債合計	18,254,962	19,312,041
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,007,370	2,007,370
資本剰余金	2,303,141	2,303,141
利益剰余金	△799,236	△370,819
自己株式	△270,027	△270,027
株主資本合計	3,241,246	3,669,663
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△857	△1,187
その他の包括利益累計額合計	△857	△1,187
新株予約権	8,249	8,249
非支配株主持分	24,833	27,326
純資産合計	3,273,472	3,704,052
負債純資産合計	21,528,434	23,016,093

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年11月1日 至2020年7月31日)
売上高	23,905,393	23,310,910
売上原価	16,385,177	16,289,674
売上総利益	7,520,215	7,021,236
販売費及び一般管理費	7,293,135	6,550,533
営業利益	227,080	470,703
営業外収益		
受取利息	13,507	11,997
協賛金収入	23,821	19,143
固定資産売却益	20,000	—
原子力立地給付金	11,700	7,812
受取補償金	—	63,313
その他	25,525	20,386
営業外収益合計	94,554	122,653
営業外費用		
支払利息	101,395	89,769
収用に伴う閉店費用	—	11,645
その他	—	100
営業外費用合計	101,395	101,514
経常利益	220,239	491,841
特別損失		
減損損失	145,281	4,178
特別損失合計	145,281	4,178
税金等調整前四半期純利益	74,957	487,662
法人税、住民税及び事業税	26,920	56,753
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	26,920	56,753
四半期純利益	48,036	430,909
非支配株主に帰属する四半期純利益	191	2,492
親会社株主に帰属する四半期純利益	47,845	428,416

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)
四半期純利益	48,036	430,909
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,509	△330
その他の包括利益合計	△9,509	△330
四半期包括利益	38,527	430,579
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	38,336	428,086
非支配株主に係る四半期包括利益	191	2,492

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響)

新型コロナウイルス感染拡大が事業に影響を与える期間と大きさについては、依然として測りかねるというのが実態ですが、現在のところ当社の事業に重要な影響は発生しておりません。

今後当社の事業に与える影響が著しく大きくなることはないとの仮定のもと、主に固定資産の減損損失会計上の見積りを行っております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 減損損失

前第3四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所
店舗	建物及び構築物 リース資産 その他	埼玉県東松山市 神奈川県大和市 新潟市江南区 神奈川県横浜市 群馬県伊勢崎市 埼玉県比企郡川島町 東京都稲城市 東京都台東区 東京都北区

当社グループは、主として店舗を基本単位として資産のグルーピングを行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、145,281千円の減損損失を特別損失として計上いたしました。これは主に、退去時に必要とされる原状回復費用の新たな情報の入手に伴い資産除去債務を計上したこと、及び追加投資の実施により、帳簿価額が将来キャッシュ・フローを上回る見込となり、帳簿価額を回収可能価額まで減額したことによるものであります。

減損損失の内訳は、建物及び構築物97,353千円、リース資産46,661千円、その他1,267千円であります。

なお、回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを5.8%で割り引いて算定しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所
店舗	建物及び構築物 リース資産	新潟市西区

当社グループは、主として店舗を基本単位として資産のグルーピングを行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、4,178千円の減損損失を特別損失として計上いたしました。これは主に、追加投資の実施により、帳簿価額が将来キャッシュ・フローを上回る見込みとなり帳簿価額を回収可能額まで減損したことによるものであります。

減損損失の内訳は、建物及び構築物2,554千円、リース資産1,624千円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業				
売上高							
外部顧客に 対する売上高	23,423,558	153,263	25,513	303,057	23,905,393	—	22,905,393
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	11,648	—	—	11,648	△11,648	—
計	23,423,558	164,911	25,513	303,057	23,917,041	△11,648	23,905,393
セグメント利益又 は損失(△)	191,384	△14,938	△16,798	3,672	163,319	63,760	227,080

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業			
減損損失	145,281	—	—	—	—	145,281

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業				
売上高							
外部顧客に 対する売上高	22,801,904	132,624	64,349	312,031	23,310,910	—	23,310,910
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	4,788	—	—	4,788	△4,788	—
計	22,801,904	137,412	64,349	312,031	23,315,699	△4,788	23,310,910
セグメント利益又 は損失(△)	415,537	△11,091	9,708	5,793	419,948	50,755	470,703

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、中古買取販売事業であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	蔦屋書店事業	スポーツ 関連事業	訪問看護 事業			
減損損失	4,178	—	—	—	—	4,178

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「スポーツ関連事業」及び「訪問看護事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

4. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

商品別販売状況

区 分		前第3四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年7月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年7月31日)		前年同期比 (%)
		売上高 (千円)	構成比 (%)	売上高 (千円)	構成比 (%)	
蔦屋書店事業	書籍	12,191,187	51.0	12,490,486	53.5	102.5
	特撰雑貨・文具	3,626,794	15.1	3,854,892	16.5	106.3
	レンタル	2,922,926	12.2	2,336,261	10.0	79.9
	ゲーム・リサイクル	1,068,297	4.5	1,023,942	4.4	95.8
	販売用CD	1,098,882	4.6	625,410	2.7	56.9
	販売用DVD	570,125	2.4	484,721	2.1	85.0
	賃貸不動産収入	426,128	1.8	427,721	1.8	100.4
	その他	1,519,216	6.3	1,558,467	6.7	102.6
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
	計	23,423,558	97.9	22,801,904	97.8	97.3
スポーツ関連 事業	外部顧客に対する売上高	153,263	0.6	132,624	0.6	86.5
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	11,648	0.0	4,788	0.0	41.1
	計	164,911	0.6	137,412	0.6	83.3
訪問看護事業	外部顧客に対する売上高	25,513	0.1	64,349	0.3	252.2
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
	計	25,513	0.1	64,349	0.3	252.2
その他	外部顧客に対する売上高	303,057	1.2	312,031	1.3	103.0
	セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
	計	303,057	1.2	312,031	1.3	103.0
合計		23,917,041	100.0	23,315,699	100.0	97.5

(注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2 セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

3 蔦屋書店事業の「その他」は、金券他であります。

4 第35期連結会計年度末より、従来「その他」に含まれていた「スポーツ関連事業」及び「訪問看護事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。なお、これに合わせて前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成しております。